

市立豊中病院運営計画「実施計画」
－平成28年度：実施状況－

平成29年7月

市立豊中病院運営計画「実施計画」

1. 医療の質の向上

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
① 高度・専門医療の提供					
(1) 医療スタッフの確保 多様かつ柔軟な手法による採用試験、説明会の実施による医療スタッフの安定的確保に努める。また仕事と家庭の両立が出来るよう環境の整備(院内保育所の充実、病児保育)の検討などを行い、加えて働きやすい勤務時間制度について検討を行う。	職員定数を5名増員した。医師、看護師の合同説明会に14回参加した。また、看護職向け病院紹介雑誌3誌に募集掲載する等、人材の確保に努めた。看護職、薬剤師、臨床工学技師の採用試験を実施した。看護職確保・離職防止のコンサルティング契約を締結し、現行の作業に基づき今後の採用活動にかかる方策や、看護職アンケート実施後に離職防止に係る方策の提案を受け、勤務形態変更等可能な施策から実施した。	職員定数の増員、合同説明会の参加、採用試験の実施			B
(2) 病床の効率的な活用 全国の急性期病院においては、在院日数が年々短縮傾向にある。当院においても、将来的に同様の傾向が想定される中、更なる新入院患者確保を前提とした効率的な病床の活用に努める。	7対1入院基本料における看護職員の配置は全ての月で満たすことができた。DPC入院期間(I・II・III・III超)を診療科毎に抽出したデータを基に、入院期間が適正であるか確認を行った。病院全体の平均在院日数は昨年度の11.8日から11.6日と0.2日短縮となった。ベッドコントロールセンター運営時間帯(平日9:00~17:00)は、患者を断ることなく迅速に緊急入院へ対応できた。	利用率・在院日数 87.5% 11.6日	利用率・在院日数 95.0% 13日以内	利用率・在院日数 95.0% 13日以内	B
(3) 外来診療の充実と効率的な運用 入院と同様に外来機能についても、高度・専門医療を行うにあたって重要な視点となる。予約率の向上により効率的な運用を図るとともに、特殊・専門外来の充実を図ること、外来診療の充実にも努める。	平成28年4月1日より風疹ワクチン外来を開始した。麻疹・風疹ワクチン接種料(ミールビック)の算定実績は22件であった。療養サポートセンターの実績は、全身麻酔が1,624件、心臓カテーテルが81件、計1,705件であった。空き診察室を利用した外来診察について、平成29年4月開始に向けて関連部署で検討を行い、運用を決定した。	外来患者数(1日平均) 1,199人	外来患者数(1日平均) 1,300人	外来患者数(1日平均) 1,300人	B
(4) 救急医療体制の充実 当院は、豊能二次医療圏のなかでは救急搬送件数の最も多い病院の1つであり、今後も公的病院としての役割を果たす必要がある。救急専門医確保による安定的な受け入れ体制確保に努めていく。	救急科応需率の実績は55.4%で平成27年度54.7%と比較し0.7ポイント上昇した。応需件数は5,194件で平成27年度応需件数の4,430件と比べ、764件増加している。院内トリアージを救急受付後30分以内に行う等運用の充実を図った。豊中市消防局と意見交換会を行った。	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数 6,276人 4,438人	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数 5,600人 5,500人	救急車搬送受入数 救急科からの入院患者数 5,600人 5,500人	B
(5) 手術室の効率的な運用 手術室の効率的な運用により、手術待ち日数の短縮化と、これまで以上の緊急手術への対応を図ることで、地域中核病院として高度・専門医療の提供に努める。また、麻酔科医の十分な確保を図り、地域の手術に対する需要に適切に対応していく。	安全対策として、臨床工学技士の手術室常駐の開始やサインイン、タイムアウト、サインアウトを平成29年度に開始する準備等に取り組んだ。外科および泌尿器科医師による麻酔科応援により手術件数の維持に努めたため、手術数は5,517件と平成27年度から43件0.8%の減少に止まった。	手術件数 5,517件	手術件数 6,000件	手術件数 6,000件	B

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(6) 周産期医療の充実	平成28年8月に日本周産期・新生児医学会認定施設の補完施設から指定施設となった。分娩件数は、775件、うち帝王切開術は261件、ハイリスク分娩(ハイリスク内容の重複あり)は158件、うち多胎分娩は37件(双胎74件)、母体搬送は101件であった。院内助産の件数は16件であった。	分娩件数	分娩件数	分娩件数	B
産婦人科医、小児科医、看護師等の人員体制の整備を中心とし、地域医療機関との連携体制を構築していくことで、「地域周産期母子医療センター」としての診療機能の維持・強化に努める。特に、当院に求められるハイリスク妊娠、多胎妊娠などへの安定的な対応に努めていく。		775件	960件	960件	
(7) がん医療の充実	がんと診断された時からの緩和ケアの推進にあたり、がん診療に携わる医師の緩和ケア研修の受講促進に取り組む(医師99%、初期研修医95%受講修了)とともに、地域の他施設・多職種が参加する「地域連携カンファレンス」を定期開催するなどがん医療に関する地域連携の強化を図った。また、院内外のセカンドオピニオン受入れ情報を更新するなどがん医療情報の提供に努めた。	地域がん診療連携拠点病院の指定更新に向けた取組み			B
がん医療の提供、緩和ケアの推進、がん医療の地域連携体制の推進、院内・地域がん登録の実施、情報提供や相談支援の実施など「地域がん診療連携拠点病院」としての機能の維持・強化に努める。					
(8) 医療資源の有効活用	病院内のスペースの見直しについて、1階中央ホール西側(コンビニ前)に「地域連携コーナー」を移設し、10月から業務を開始した。病床検討会議を開催し、2025年に向けた医療制度改革の方向性等を踏まえながら、当院の将来の病床機能の在り方について検討を行った。	病床機能の在り方検討			B
既存の診療機能について、当院に求められている高度・専門医療の提供といった役割や需給状況に応じて柔軟に見直しを図ることで、より適切な医療提供体制整備に努める。					
(9) 放射線の管理	一般撮影装置のフラットパネルシステム化につき機種選定チームを中心に最適な導入案について検討を行った。体幹部定位放射線治療の平成29年度実施に向けて、体制整備を行った。	放射線治療部門の品質管理体制の確立			B
チーム医療の一員として放射線などを利用した検査・治療をするに当たり患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう 医療の安全・安心の向上を目指し装置の点検・保守をし被曝線量の低減等放射線管理に努めていく。					
(10) 急性期におけるリハビリテーションの実施と充実	脳血管疾患は入院より平均5日目より開始し平均在院日数27日、廃用症候群は10日目より開始し平均在院日数39日、運動器は6日目より開始し平均在院28日程度であった。心大血管疾患は平均23単位であった。待機患者に対して、リハビリテーション開始前の簡易病棟リハビリテーションのパンフレットを作成し、配布した。	疾患別リハビリテーションの実施			B
疾患別(脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群)急性期リハビリテーションの充実を継続して行う。25年度より心臓リハビリテーションを実施する。またその充実を図るために、積極的な研修参加や部内での勉強会を引き続き行っていく。					

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(11) 治療に適切な食事の提供 病院食は普通食以外にも、疾病の種類や摂食・嚥下の機能障害など様々な条件に対応できるように多くの種類を設定しており、さらに医師からの要望によりその種類は増えつつある。その全てがさらに院内で広く周知され、十分に活用されるよう体制づくりに努める。	特別食に対応する疾病がある患者に適應する治療食がオーダーされていない場合は医師宛に付箋を貼るとともに、院内新聞(栄養タイムズ)を4月・6月・8月に発行するなど適切な治療食への切り替えに向けた医師に対する啓発活動を継続して行った。加算食対応となる心高ハーフ食、腎臓ハーフ食、肝臓脂肪制限食を5月から新たに実施した。	特別治療食の比率 34.2%	特別治療食の比率 31.0%	特別治療食の比率 32.0%	A
(12) 医療ニーズの把握と検証 外部環境分析および内部環境分析による医療需要の把握と医療供給の検討に努め、地域の中核病院として当院の果たすべき医療機能を検証する。また、検証内容は病院職員に積極的に公表し、情報の共有化に努める。	大阪府地域医療構想を踏まえた改訂として「実施計画(改訂2版)」を策定し、これを当院における新改革プランと位置づけた。新たな運営計画および実施計画の策定に向けて、公募型プロポーザル方式により、平成29年3月に計画策定業務支援を行う委託事業者を決定した。	新たな運営計画策定に向けた計画策定業務支援業者の選定			B
② 医療の安全・安心の向上					
(13) 医療安全対策の徹底 医療安全管理室を中心に全職員が、医療事故発生の防止に取り組み、各種関連学会等を通じた新たな知見を習得することによって、「安全で安心できる病院」となるよう努める。	インシデントレベル0及びノンテクニカルスキルの面を分析、活用することを推奨し、医療安全の概念の拡張を図るよう教育活動を行った。このことにより、事故をより多角的に捉えられるようになった。また、転倒・転落事故と誤薬事故の防止にむけて対応を強化した(前年度に比べ転倒・転落事故32件7.6%減少、誤薬事故97件33.21%減少)。	医療事故発生防止の取り組み			A
(14) 院内感染防止対策の充実 病院内の全ての人々を感染から守るため、現行のICT(院内感染対策チーム)による更なる活動の充実を図るとともに、関係各所と協力のもと体制強化に努めることで、継続的な感染対策活動を推進する。	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の発生に対して早期介入し、水平伝播はおこらずに経過した。また、MRSAやインフルエンザのアウトブレイクに対して適切に対応した。感染症病棟の受け入れマニュアルを修正し、平成29年度に訓練を実施する体制を調えた。	MRSA発生率0.42% 緑膿菌発生率0.34% セラチア菌発生率0.00%	MRSA発生率0.4% 緑膿菌発生率0.4% セラチア菌発生率0.1%	MRSA発生率0.4%以下 緑膿菌発生率0.4%以下 セラチア菌発生率0.1%以下	B
(15) 災害対応と危機管理体制の確立 突然の有事に迅速かつ適切に対応できるよう職員の意識や能力を高めることを目的に大災害や大事故に備えてマニュアルの更新や訓練を実施する。また、他地域における被災地への支援活動についても各種要請に適切な対応を図ることが出来るよう体制を整備する。	災害時に関係者が連携して、迅速・的確に対応できる体制づくりと職員の防災意識の向上を図るための大規模災害訓練を12月3日に実施し、259名が参加した。熊本地震の被災地である熊本赤十字病院の平井 克樹医師を招き、被災地支援活動体制のあり方等についての講演を行った。	大規模災害訓練の実施			B

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
③ 情報化の推進と職員教育の徹底					
(16) 市立豊中病院総合情報通信システムの充実	市立豊中病院第2次医療情報化計画を平成29年2月に策定した。医用画像管理システム(PACS)の更新に向けて、機種選定を行い、平成29年2月にシステムを切り替え稼働している。タブレットの利用について、顔認証によるユーザ認証を構築し、平成28年11月から認証方法の変更を行った。	医用画像管理システム(PACS)の更新			A
(17) 個人情報保護に係る研修の推進	4月に外部から講師を招きセキュリティ講演会を実施し147名の参加があった。平成29年3月に2回目の集合研修を開催し、188名が参加した。USBメモリの管理を徹底するため、運用要綱を改定し、院外への持ち出しを禁止した。	セキュリティ講習会の実施			B
(18) 診療情報管理の徹底	診療記録文書統合管理システムの導入に向けて、地域医療連携を重視した診療記録を新システムで管理する方式やシステム機能の基本的要件、ベンダーの選定等について検討を行い運営会議で承認を得た。	診療記録文書統合管理システムの導入に向けての体制整備			B
(19) クリニカルパス充実による医療の標準化	10月24日にクリニカルパス大会を開催した。紙運用から電子クリニカルパスに対応するため、マニュアルを改定した。新採用者向けのパス操作方法の周知に関して、改定したマニュアルの内容にパスの定義や基本的用語の説明などを盛り込み教育ツールとしても活用できるようにした。	クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率	クリニカルパス利用率	B
質の高い医療の標準化を目的に、クリニカルパスの充実を図る。クリニカルパスを適用することで医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与する。		51.14%	50%以上	50%以上	
④ 医師及び看護職員の業務負担軽減					
(20) 医師の業務負担軽減	応援医師の活用、育児支援策の実施(院内保育所の運営、育児休業法に則った各種施策制度)など業務負担軽減に努めた。メディカルアシスタントを増員し、未配置の外来診療科へ配置を行い、医師の負担軽減を図るとともに、アンケートを実施し今後の運用について検討した。	育児支援策等の継続実施			B

市立豊中病院運営計画「実施計画」

取組項目及び概要	28年度取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(21) 看護職員の業務負担軽減	<p>変則2交替の勤務形態でおこなえる具体的な業務内容については各部署で検討できたが、定数が充足していないため看護体制の検討までに至っていない。一時的に11時間45分勤務の長日勤を一部の病棟で試行したが、業務内容によっては負担がある。非常勤の短時間看護職員を18名採用した。</p>				
<p>近年診療報酬上においても、看護職員の負担軽減を促進することが積極的に推進されている。看護補助体制の充実による業務負担軽減の可能性や職種間での業務分担のあり方を検討していく。</p>		<p>短時間看護職員 (非常勤)の採用</p>			C

2. 患者サービスの向上

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
① 接遇および患者の利便性向上					
(22) 患者満足度の向上	意見箱の内容で喫煙に関する意見が多かったため、池の周囲に注意喚起のポスター掲示を行った。また、お褒め及び投書に対する改善結果について、病院だより及び当院ホームページにて回答を掲示し、患者向けに公表を行った。	患者満足度 (調査実施なし)	患者満足度	患者満足度 前回調査を上回る	B
(23) 接遇の向上	7月に外部講師を招き、「あいさつ・笑顔・聴き方」など接遇やコミュニケーションをテーマにした研修を実施し、医師・看護師・事務職等、計80名の参加があった。また、平成29年2月に当院患者から寄せられた接遇に関する事例をもとに研修を実施し、医師・看護師・事務職等、計152名の参加があった。院内ホームページに掲載している接遇マニュアルを、院内ポータルに再度掲示を行い接遇マニュアルの周知を行った。	接遇研修会の実施			B
② 待ち時間対策および院内環境の整備・充実					
(24) 診察・各種検査待ち時間の対策	適宜、会計待ち時間調査を行うことで現状把握をするとともに、医事業務連絡会において会計入力担当者の適正な配置や応援体制などの検討を行った。なお、平均待ち時間について、平成27年4月が22.8分に対し、平成29年3月は9.0分となっている。土曜日または連休初日における救急科窓口での退院精算待ち時間を短縮するため、改善策を検討した。	会計待ち時間調査の実施			B
(25) 売店機能などアメニティの充実	コーヒーショップスペース跡に地域連携コーナーを新設しスペースの有効活用を図った。	地域連携コーナーの新設			B

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(26) 食事療養の充実	シェフのおすすめメニュー(四季折々の食材を使用したメニュー)およびマチカネデリカ(家庭でも作りやすい野菜たっぷりメニュー)をそれぞれ月に1回継続実施し、アンケートをもとに内容の充実を図った。年22回の行事食の提供や夜間入院、休日祝日のアレルギー食対応を継続して実施した。	シェフのお勧めメニュー マチカネデリカ	シェフのお勧めメニュー マチカネデリカ	シェフのお勧めメニュー 及びマチカネデリカの回数	A
病院食については「栄養管理」はもとより、食材・調理法・味付けにおいても一層充実した病院食提供が求められている。定期的な嗜好調査等の実施を通じて、より患者にとって満足度の高い食事提供に努める。		1回/月 1回/月	1回/月 1回/月	2回/月	
③ 地域への貢献					
(27) 市民向け講演会・講座の開催	市民を対象に「がん医療の最前線～がんを治すロボットのと薬の力～」、「がん検診の大切さを知る～今の幸せをかみしめて～」、中学生を対象に「性感染症について」、「がんについての正しい知識とがん予防について」などの講演・講座を実施した。	「がん医療市民公開講座」等の開催			A
地域の中核病院として、講演会や講座の開催を通じて、患者・地域住民に対する啓発活動に努め、より身近な病院として信頼向上を図る。					
(28) 広報機能の充実	「オープンホスピタル2016」を10月30日(日)に開催し、800人を超える方の来場があった。ホームページにおいて、外科後期研修医採用サイトの更新、麻酔科医師・後期研修医の募集ページを新設するとともに、ダヴィンチ紹介ページの新規制作等内容の充実を図った。	オープンホスピタルの開催			A
広報機能の一層の機能充実を図ることで、病院のPR強化に努める。既存の広報ツールや情報収集のプロセスにおいて、不十分な点や見直しの余地が残されている点を抽出し、全病院的な取り組みが展開出来るよう、体制の整備に努める。					

3. 医療連携の推進

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
① 地域における医療機関との連携					
(29) 地域医療支援病院機能の維持・充実	市内外の地域医療機関87施設への訪問を行い、地域医療連携の強化に努めた。地域医療機関からの依頼に対して「断らない」「待たせない」医療提供を実現するため、患者の受入体制について新たな手順書を策定した。整形外科において、時間外・休日に当番医師を配置し、緊急診療に対応できるよう体制を整えた。	地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率 77.5% 75.5%	地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率 59.5% 69.5%	地域医療支援病院紹介率 地域医療支援病院逆紹介率 60.0% 70.0%	B
紹介・逆紹介の推進、在宅医療の支援、地域医療従事者に対する研修の実施、市民等への医療情報発信など「地域医療支援病院」に係る機能の維持・充実に努める。					
(30) 病病連携・病診連携の推進	かかりつけ医を持つことについて、リーフレットを作成し啓発を行った。「あんしんルート」事業は、9月から豊中平成病院、平成記念病院ともネットワークを拡大し、病院機能に応じた医療連携の推進を図った(7件)。千里山病院とは、従来の誤嚥性肺炎に、6月から肺炎、尿路感染症、脱水症を加え、連携をさらに強化することができた(87件)。	登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科) 76.2% 70.8%	登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科) 79.0% 69.0%	登録医制度契約率(医科) 登録医制度契約率(歯科) 80.0% 70.0%	B
当院の診療機能・専門領域などのPRに努めるとともに、地域医療機関との信頼関係の構築により患者へのシームレスな医療提供を図る。					
(31) 4疾病を中心とした地域医療連携パスの拡充	大腿骨頸部骨折や脳卒中、糖尿病、急性心筋梗塞の地域連携パスについては、計画策定病院と連携先医療機関との連携会議をとおして、運用にあたっての情報を共有し、連携を図った。がん地域連携パスについては、地域医療機関への訪問等をおして、連携先医療機関の拡大を行った。	がん地域連携パスの連携先医療機関の拡大			B
現在、地域の医療機関と協力して「がん」、「脳卒中」、「糖尿病」、「急性心筋梗塞」、「大腿骨頸部骨折」といった疾病の地域連携パスが稼働している。今後も、地域全体でのシームレスな医療提供体制の充実に努めるべく、対象疾患ならびに連携医療機関の拡充を図っていく。					
(32) 臨床検査講演会・技術講習会の開催	市内の医療従事者を対象に超音波技術講習会を平成29年2月18日に開催し19名が受講した。今年度より心エコー、腹部エコーの他、頸動脈エコーも実施した。	超音波技術講習会の開催			B
地域における医療機関の医師、臨床検査技師や看護師などの医療従事者を対象に、臨床検査をテーマとした講演会や技術講習会を開催し、最新の情報を提供するとともに情報交換を行い、医療水準を高めていく。					
② 自治体立病院、特定機能病院との連携					
(33) 圏内市立病院および特定機能病院との連携	北大阪5病院会議などを通じて情報交換に努めた。「豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会」や「豊能医療圏脳卒中地域連携バス会議」などを通じて、連携強化に努めた。大阪大学医学部附属病院を中心とした「大阪臨床研究ネットワーク(OCR-net)」参加に向けた体制整備等の準備を進めた。	北大阪5病院会議等による連携			B
各病院の医療提供体制や地域性、自治体の意向等も考慮した上で、二次医療圏内として最適な機能分担のあり方を検討する。なお、当該連携にあたっては、機能分担のみならず、各種情報連携のあり方といった点も含め検討を進める。					

4. 経営基盤の確立

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
① 収益の確保					
(34) 診療報酬の適正な算定	総合入院体制加算3から総合入院体制加算2の施設基準を取得した。医師事務作業補助加算25対1を取得した。診療材料の査定に伴い、治療による適正使用を訴えるため、審査支払機関へ医師による再審査面談の申し入れを行った。外部機関によるレセプト精度調査を行ない、算定漏れの指摘があったものについては、返戻のうえ再請求を行なった。	レセプトの点検強化			A
診療報酬算定については月次レベルでの算定状況確認に努める。特に医学管理・在宅療養に係る算定項目は業務運用による部分も大きいと、関連する業務運用の検証も適宜行っていく。またレセプト減点率や保留削減にも継続して努めることで適切な精度管理も行っていく。					
(35) DPC/PDPS制度への対応	平成28年度7月・10月・1月提出分「DPC導入の影響評価に係る調査」及び第一回・第二回・第三回再調査に対してデータを遅延なく提出した。コーディングは適正に行うことができ、平成28年度の詳細不明コードは、他院の平均5.3%と比較し、当院は0.8%に抑えることができた（DPC分析ソフトEVE参加大規模病院69病院中3位）。	適正なコーディングの実施			B
適正な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。					
(36) 未収金の発生抑止と督促体制の強化	連絡がつかず接触が困難な患者宅を6件訪問し、うち3件については面会し、被保険者証の確認をすることが出来た。結果、健康保険適用での再計算を行ない未収金の減額を図るとともに、11,428円の納付に繋がった。回収困難な未収金として15,868,880円を弁護士委託し、今年度の回収実績は、1,375,846円であった。	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率	B
適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの観点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑止については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。		99.1% 20.1%	99.0%以上 20.0%以上	99.0%以上 20.0%以上	
② 費用の抑制、軽減					
(37) 後発医薬品導入の検討および導入効果の検証	平成28年3月以降48品目、平成28年度としては28品目を後発医薬品へ変更したことにより、平成28年度の後発医薬品指数は0.88となった。次期DPC対象期間（平成27年10月～平成28年9月）の後発医薬品指数は、0.85となり、目標の0.80を上回った。既に切替え済みの後発医薬品についても安全面を検証の結果、特に問題はなく、引き続き検証を行っていく。	切替え済み後発医薬品の安全面の検証			A
後発医薬品への切り替えについては、安全性の確保を最優先とし、今後の薬物療法の変化、他病院での使用状況、流通状況、納入価格、切り替え効果などを鑑み、検討していく。					
(38) 材料費の抑制・軽減	診療材料と医薬品について、市場価格を調査のうえベンチマークを基にして仕入れ業者と価格交渉を行うなど、購入価格の抑制に努めた。	購入価格抑制への取組み			B
材料の価格交渉の実施について、各々の特性に応じた交渉方法を検討していく。また他病院とのベンチマークを元にした現行採用物品の価格の適正化や新規採用物品の価格交渉活動を行う。					

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(39) 光熱水費の抑制・軽減	光熱水費の削減に向けて、照明の間引きや空調温度の適正管理、空調一部停止などに取り組んだ。しかし、自然災害による送電線事故があり、以降ガス利用による発電割合を増加させた。電気・ガス・水道の使用量については平成23年度比8.86%減・28.93%増・18.05%減で、使用額については平成27年度比6.59%減・19.28%減・0.74%増となった。	電気ガスエネルギー使用量 3%増加 (平成23年度比)	電気ガスエネルギー使用量 4%削減 (平成23年度比)	電気ガスエネルギー使用量 5%削減 (平成23年度比)	C
(40) 施設の計画的な整備	平成24年度に作成した施設の修繕・整備計画に基づき建物や設備の改修を実施する。また、コ・ジェネレーションシステム(熱電併給)の更新などを実施する。	非常用発電設備、無停電電源設備は10月、吸収式冷温水発生機については平成29年3月に更新工事が完了した。長期修繕計画に基づき、防災システム更新など設備改修工事の設計を完了した。	非常用発電設備、無停電電源設備および吸収式冷温水発生機の更新		A
(41) 医療機器の計画的な整備	ダヴィンチXiの導入に向けて、手術室の付帯工事、医療者の研修などを行った。また10月30日(日)開催のオープンホスピタルや、病院だより、がん医療市民公開講座、病院ホームページ等においてPRに努めた。PACSシステム(医用画像管理システム)の更新を行った(平成29年2月)。	ダヴィンチXiの導入			B
(42) 超音波装置の中央管理実施	新規購入の装置も含め超音波装置リスト(48台)の更新や次年度予算申請を超音波機器管理センターが一括して行った。また、研修医オリエンテーション時に超音波装置の取扱方法を説明した。消化器内科、循環器内科にローテートしている研修に毎月実技指導を行った。	超音波装置リストの更新			A
③ 運営管理体制の構築					
(43) 職員のモチベーション維持向上	公平で透明性の高い業績評価制度の導入を図ることで、日常業務に対するモチベーション向上に努める。当該制度導入にあたっては、経営的な視点の他に、日常業務に対する姿勢や行動といった視点を踏まえた制度設計に努める。その他、時間外勤務労働についても業務効率化を図ることで削減することをめざす。	医師の人事評価制度を実施したが、初年度のこともありフィードバックまでできなかった。時間外勤務労働縮減に向け、年2回の長時間労働面談を実施したが、構造的な課題もあり面談対象者の減少にまでは至らなかった。ストレスチェックやメンタル・ハラスメント相談を行った。	医師の人事評価制度を実施		C

市立豊中病院運営計画「実施計画」

[評価]A:達成できた B:概ね達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

取組項目及び概要	28年度の取組状況	28年度実績	28年度目標	29年度目標	評価 [A~D]
(44) 研修制度の充実					B
高度・専門医療の提供の実現にあたって、人材育成は最も重要な要素であり、病院全体として充実を図る。また、当該取り組みを対外的に積極的にPRしていくことにより、患者だけでなく医療スタッフにとっても魅力ある職場づくりを推進していく。	医療安全研修会(2回、346名参加)、感染対策講習会(2回、210名参加)、ハラスメント防止研修(43名)など各種研修会を実施した。がん診療研修ワーキンググループにおいて、がん関係で重複している研修について情報収集・検討した結果、充実したがん診療研修となった。	がん関連の研修の在り方検討			
(45) 地方公営企業会計制度改正への対応					—
企業会計基準との整合を図ることを目的として、地方公営企業会計制度が改正された。借入資本金の負債計上や退職給付引当金、賞与引当金等の義務化、リース会計の導入など、大きく制度が変更されるなかで、これらの制度改正に対応する必要がある。また、財務諸表・健全化指標への影響の把握に努め、良好な経営基盤の確立に向けて取り組みを行う。	平成26年度から新会計基準に対応している。	(終了)			
(46) 病院機能評価による機能向上					—
病院機能評価の認定更新により、現状の優れている点や改善すべき問題点を客観的に把握し、改善に努めることで病院機能の向上及び効果的なサービスの改善につなげる。	平成26年度末に認定更新された。認定から3年目となる病院において実施される「認定期間中の確認」について、質改善活動の取組み状況を公益財団法人日本医療機能評価機構へ報告した。	(終了)			
(47) 経営状況・業務実績の共有化					B
全職員が病院の経営状況を理解し日常の業務に柔軟に対応出来るよう、周知の方法や周知する内容等も工夫を図る。目標に対する達成度や現状の課題を認識することで、迅速な経営判断・実行への着手を図っていく。	4月に「平成28年度運営方針について」「院内通信No.8」、7月に「(実施計画の)平成27年度実施状況」、11月に「市立豊中病院の経営状況(平成27年度)」、12月に「院内通信No.9」を院内ポータルおよび院内ホームページに掲載して、運営方針や経営状況などについて全職員への情報共有に努めた。	「運営方針について」、「院内通信」等の発行			

評価の分類	項目数	構成比
A:達成できた	10	22%
B:概ね達成できた	32	71%
C:あまり達成できなかった	3	7%
D:達成できなかった	0	0%
	45	100%

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度)	実績値(平成28年度)	目標値(平成28年度)	目標値(平成29年度)
2	病床の効率的な活用	病床利用率	94.5%	87.5%	95.0%	95.0%
		平均在院日数	12.5日	11.8日	13日以内	13日以内
3	外来診療の充実と効率的な運用	外来患者数(1日平均)	1,270人	1,199人	1,300人	1,300人
4	救急医療体制の充実	救急車搬送受入数	4,700人	6,276人	5,600人	5,600人
		救急科からの入院患者数	4,600人	4,438人	5,500人	5,500人
5	手術室の効率的な運用	手術件数	5,500件	5,517件	6,000件	6,000件
6	周産期医療の充実	分娩件数	920件	775件	960件	960件
11	治療に適切な食事の提供	特別治療食の比率	30.9%	34.2%	31.0%	32.0%
14	院内感染防止対策の充実	MRSA院内発生率	0.45%	0.42%	0.40%以下	0.40%以下
		緑膿菌院内発生率	0.45%	0.34%	0.40%以下	0.40%以下
		セラチア菌院内発生率	0.12%	0.00%	0.10%以下	0.10%以下
19	クリニカルパス充実による医療の標準化	クリニカルパス利用率	50.0%	51.14%	50.0%以上	50.0%以上
22	患者満足度の向上	患者満足度調査結果、満足しているとの回答(入院患者)	95.2%	—	—	前回調査を上回る
		患者満足度調査結果、満足しているとの回答(外来患者)	84.7%	—	—	前回調査を上回る
26	食事療養の充実	シェフのお勧めメニュー及びマチカネデリカの回数	1回/月	2回/月	2回/月	2回/月
29	地域医療支援病院機能の維持・充実	地域医療支援病院紹介率	57.5%	77.5%	59.5%	60.0%
		地域医療支援病院逆紹介率	63.5%	75.5%	69.5%	70.0%

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度)	実績値(平成28年度)	目標値(平成28年度)	目標値(平成29年度)
30	病病連携・病診連携の推進	登録医制度契約率(医科)	75.1%	76.2%	79.0%	80.0%
		登録医制度契約率(歯科)	64.0%	70.8%	69.0%	70.0%
36	未収金の発生抑止と督促体制の強化	現年度分収納率	98.93%(入院)、97.48%(外来)	99.1%	99.0%以上	99.0%以上
		過年度分収納率	10.67%(入院)、13.24%(外来)	20.1%	20.0%以上	20.0%以上
39	光熱水費の抑制・軽減	電気ガスエネルギー使用量	4,659kl (原油換算)	(H23年度比)3%増加	(H23年度比)4%削減	(H23年度比)5%削減
一	経営基盤の確立	経常収支比率	98.7%	97.7%	100%	100%
		入院診療単価	55,700円	58,024円	57,625円	58,000円
		外来診療単価	13,200円	16,918円	13,825円	14,000円